

景観でつながる情報誌

# 益田 PLUS 景観

Masuda PLUS+ Keikan



Take Free  
ご自由に  
お取りください。



## 自然と寄り添う景観

〜景観重要公共施設と景観重要樹木〜



知りたい！益田市の取り組み

・景観計画作成チームについて

景観塾

・景観重要公共施設・景観重要樹木とは

景観を支える人たち

・横田花・花会

・真砂の自然を守る会



益田の景観ポイント

景観の視点で見る道路



この情報誌は近畿大学建築学部都市計画研究室が作成しています。平成 21 年度から大阪の学生が益田に訪れていますが、益田の人々にとって当たり前風景も、近畿大学の学生である私たちにとっては、特別な素晴らしい風景なのです。益田景観に対して取り組みを行なう市民の方々や、私たちがこれまでに取り組んできた活動の紹介、益田で感じた魅力を情報誌に収めています。

# 特集

## 自然と寄り添う景観

「景観重要公共施設と景観重要樹木」

自然と寄り添う景観とは、山や川、海、森林等の中で構成された景観です。その中でも、河川、漁港、道路等は、景観重要公共施設として挙げられます。また、自然・歴史等から見て、地域で親しまれている樹木は、景観重要樹木として見ることが出来ます。

そこで、今回の特集では、その二つが含まれる自然景観に焦点を当て、紹介します。



持石海岸



木部港



飯浦海岸

益田市の景観において、欠かすことのできない要素として「海」の景観があります。夏の青い海、漁火船が並ぶ漁港や夕日で赤く染まる日本海の景観。季節、天候、時間帯によって様々な姿を見せる海のある景観は、益田市にとってかけがえのない財産です。



益田川

高津川をはじめ、益田市内には、多くの川が流れています。美しい景観はもちろんのこと、様々なイベントを通して多くの市民が愛着をもち、保全の活動をしている所にも魅力があります。また、橋や土手から見た風景、上流や河口の風景など違った景観を見ることが出来ます。



高津川と高角橋



匹見峡

樹木には、歴史や文化を伝える歴史的価値のあるものや、地域に親しまれて良好な景観を形成するものなどがあります。春になったら花見をしたり、秋になると紅葉がまちを彩ったりなど、地域住民にとっても欠かせない存在となっています。



宇津川神宮の銀杏



金谷城山桜



歴史民俗資料館前のニセアカシア

# 樹木

# 景観塾

「美しく風格のある国土の形成」「潤いのある豊かな生活環境の創造」「個性的で活力ある地域社会の実現」などを目的としている景観法の内容から、今回は景観重要公共施設と景観重要樹木について紹介します。

## 景観重要公共施設・景観重要樹木

景観重要公共施設とは

景観計画では、景観計画区域内の景観形成上重要な公共施設（道路・河川・都市公園・海岸・港湾・漁港等）の整備に関する事項と、占用等の許可基準を定めることができます。この景観上重要な公共施設として景観計画に位置付けられた施設のことを「景観重要公共施設」といいます。

対象となる公共施設は、地域の顔となる特定公共施設であり、その管理者と協議・同意のもとに、景観計画に「対象公共施設の整備に当たり、景観上配慮すべき事項」について定め、「対象公共施設の景観上の特性を維持するために必要な占用等の許可基準」を定めます。

これにより、対象となる公共施設とその周辺の土地利用が一体的に景観計画に位置付けられ、効果的に良好な景観形成を図ることが可能となります。

例として、千葉県松戸市では、景観重要道路の一つに常盤平さくら通りが指定されています。春を告げる風物詩「常盤平 さくらまつり」で、この道路は華やかな賑わいを演出する舞台となり、観光資源としての役割を發揮します。



常盤平さくら通り（千葉県松戸市）

景観重要樹木とは

地域の景観上重要な樹木で、地域の個性ある景観づくりの核として維持・保全及び継承を図るために、景観行政団体の長（市長）が指定する単体の樹木を指します。

指定の基準は、「地域の自然・歴史・文化・生活等から見て、その景観上の特性が樹木の姿に現れたもので、地域の景観のシンボルとして親しまれている樹木」であり、「所有者以外にも、誰でも見ることが出来る樹木」とされています。

景観重要樹木に指定されることで、所有者及び管理者には樹木の適正管理が義務付けられ、現状変更（樹木の伐採や移植等）に関しては市長の許可が必要となります。

このため、指定に当たっては、対象となる樹木の所有者及び管理者の意見を聴き、できる限りその意見を尊重することが望ましいとされています。

例として、山形県大江町では景観重要樹木の一つに柳川熊野神社にあるケヤキが指定されています。このケヤキは樹齢八百から千年といわれており、通りから目につきやすく、地域のランドマークとしての役割を果たしています。



ケヤキ（山形県大江町）

## 益田の景観ポイント



### 景観の視点で見る道路

普段何気なく通っている道路について、景観の視点で紹介します。



国道 191 号線



暁音寺前



萬福寺参道

一九一号線は、日本海の眺望や赤瓦屋根の連なりの風景を楽しむことができ、また、萬福寺参道や、暁音寺前の道路などは、景観に配慮した舗装や、こげ茶等の落ち着いた色調にすることで、歴史的な雰囲気を感じ出すことができます。

## 知りたい！益田市の取り組み

### 景観計画作成チームについて

去る八月二十八日、第二回目の会議が行われました。今回は、市内各地域の「景観特性と課題の把握」、「景観形成における理念と目標の設定」、「景観重点地区候補の抽出」の三点について、議論がなされました。

様々な視点から意見が述べられる活発な議論となり、全員で試行錯誤しながら、景観計画に盛り込む一言一句を考えました。

## 景観を支える人たち

益田市内で活動している景観活動団体を  
紹介します。

### 【横田花・花会】

代表者 横田第一自治会会長 齋藤利幸 氏

益田市が誇る美しい川、「高津川」と美しい花を合わせて美しい景観にしようという目的で、平成十四年に国交省が自治会長に声をかけたことから横田花・花会の活動が始まりました。

五月に夏の花を、十一月に冬の花、年に二回国交省から花の提供を受け、リバーサイドガーデンに植えます。植え付けの他にも、除草作業を年に二回、水やりを毎日行います。さらに、古い花の片付け、除草作業、耕作、花の管理などの活動も横田第一自治会の中の七つの町内会により役割分担され行われています。夏の暑さの中では、毎日水やりをしても三か月ほどで枯れてしまう等まだまだ課題は多くありますが、高津川がウォーキングコースになっている為、橋を渡ってきた人や川沿いを歩く人が花を見て喜んでくれています。

また、昔は川沿いにゴミを捨てるという問題がありました。昔は川沿いにゴミを捨てるという問題がありました。このように、十年以上活動を続けてきたことで、目に見える変化だけでなく、周りの人の意識向上にも繋がっていると感じています。



▲植え付けの作業風景



▲花壇

### 【真砂の自然を守る会】

代表者 真砂の自然を守る会会長 齋藤明美 氏

子どもが帰ってきたくなる場所づくりや、自然に囲まれた真砂の環境を守り続けたいと思い、真砂地区活性化対策協議会（現在は真砂自然を守る会）を立ち上げました。真砂村であったとき、当時の住民はストーブを焚くために薪を拾いに日晩山（標高七百四十四メートル）をよく訪れていました。日晩山は、昔から真砂地区のシンボリック的存在であり、今も地域の人々から愛されています。

今も昔も変わらない日晩山で地域起こしをしようと思い、登山道をつくりました。人を集めて草刈り等を行い、地道に登山道をつくりあげていきました。他にも、日晩山を一周できる日晩山遊歩道をつくりました。豊かな自然、景観の美しさ、故事・伝説を伝える遺跡等が、訪れる人々から人気を集めています。最近では、県外からの登山者も増え、知名度も上がってきています。

今後も、活動を通して子どもが帰ってきた時に生活ができる環境をつくりながら、真砂の自然を守っていききたいです。



▲登山道の整備



▲日晩山遊歩道

## 表紙の写真

表紙を飾る益田の風景は、近畿大学都市計画研究室が撮影したものです。雄大な自然、赤瓦によってつくられる景観は私たちに日本の原風景を連想させてくれます。

## 「益田川と歴史民俗資料館」

益田市本町

本町と東町をつなぐ新橋から撮影した写真です。赤瓦と白壁の歴史民俗資料館と、夕日に照らされる益田川が印象的です。このような景観を見ながら、ゆっくり土手を歩きたいですね。



## 次号予告

## 益田 PLUS+ Keikan 冬号

Masuda PLUS+ Keikan

次号は、益田市の中でも特徴的な農村の景観について取り上げる予定です。農村の景観を創り上げている様々な要素を紹介していきます。



### 【制作】

近畿大学 都市計画研究室

〒577-8502

大阪府東大阪市小若江 3-4-1

都市計画研究室ホームページ

<http://urbanlab-kindai.main.jp/>

都市計画研究室ブログ

<http://urbankindai.blog84.fc2.com/>